



古典語実用文の文体研究ならびに 現代語文章教育の方法の研究

国際文化学部
日本文化学科
教授

辛島 美絵



研究シーズの紹介

本研究は、鎌倉時代の古文書の文章を研究するものです。
中世以前の日本語資料は都（京都）の貴族の文章語が大部分ですが、古文書は実生活の必要上から地方在住の貴族以外の人々も書き残しています。

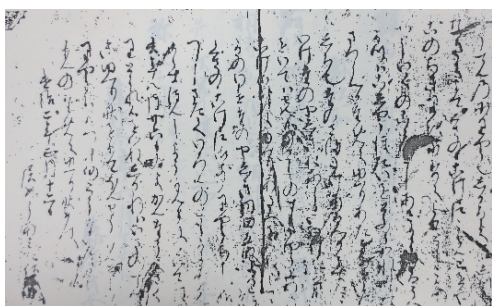
そこで、鎌倉時代の古文書に着目し、全国の武士や庶民がどのような文章をどのように書いたのかを研究しています。

本研究は、日本語の文体史に繋ぐための基礎的研究ですが、そこで得られた知見は、学生たちに向けた現代語の文章教育方法の開発にも役に立ちます。



日本語の歴史研究

- 中世以前の多様な日本語について知ることが可能です。
- 日本語の実用文の文体の形成について知ることが可能です。



13世紀の女性が平仮名で書いた遺言状で
宗像大社に伝わっています
(建治2年1月12日 尼めうあみた仏譲状
『宗像大社文書』吉川弘文館より)

漢文の古文書に倣って型(テンプレート)どおりの文章が記されていますが、文を細かく分析すると、挿入句が多く、同じ接続表現が繰り返されるなど、独自のアレンジがされています。

1通1通の文書を調査して、独自にアレンジされた文章を見つけ出し、なぜ、テンプレ通りに書かなかったのか？何をもとにアレンジをしたのか？等について調査していきます。

期待される活用シーン

- 日本語の歴史を知りたい!



これまではあまり知られていなかった地方在住の人々が使っていた日本語を知ることができます!



- 仕事に使う、きちんとした文章を書きたい!



実用文を作成するための教育方法を開発しています!



その他の研究テーマ

- ・ 中世日本語の話し言葉に関する研究